

## Service Configuration Editor の使用

---

Service Control Engine (SCE) プラットフォームがトラフィックを処理するように設定するには、サービス コンフィギュレーションを定義し、それをプラットフォームに適用する必要があります。サービス コンフィギュレーションの作成、定義、管理には、Service Configuration Editor ツールを使用します。

ここでは、Service Configuration Editor ツールの使用法について説明します。

- [サービス コンフィギュレーション \(p.6-1\)](#)
- [サービス コンフィギュレーションの管理 \(p.6-2\)](#)

### サービス コンフィギュレーション

サービス コンフィギュレーションは、SCE プラットフォームでのネットワーク トラフィックの分析方法、トラフィックに適用される規則、これらの規則を適用するために SCE プラットフォームが実行しなければならないアクションを定義するデータ構造です。

ここでは、Service Configuration Editor ツールの使用法について説明します。

## サービス コンフィギュレーションの管理

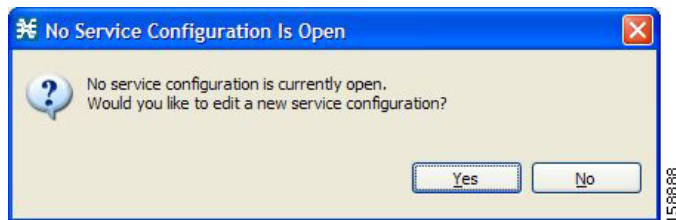
ここでは、次の操作について説明します。

- サービス コンフィギュレーションの管理
- サービス コンフィギュレーションデータのエクスポートおよびインポート
- SCE プラットフォームへのサービス コンフィギュレーションの適用およびその取得

### Service Configuration Editor ツールの開き方

Service Configuration Editor ツールを開いたり、このツールに切り替えたときに、開いているサービス コンフィギュレーションが1つもないと、No Service Configuration Is Open ダイアログボックスが表示されます。

図 6-1



- 新しいサービス コンフィギュレーションを作成する場合（「新しいサービス コンフィギュレーションの追加」 [p.6-2] を参照）は、**Yes** をクリックします。
- 既存のサービス コンフィギュレーションを開く場合（「既存のサービス コンフィギュレーションの開き方」 [p.6-4] を参照）は、**No** をクリックします。

Configuration オプションがメイン メニューに含まれるのは、開いているサービス コンフィギュレーションが1つ以上ある場合だけです。

多くのサービス コンフィギュレーションを同時に開くことができます。それぞれ独自の画面に表示され、画面をクリックすると、その画面のサービス コンフィギュレーションがアクティブになります。

サービス コンフィギュレーションに未保存の変更があると、その画面の名前の前にアスタリスクが追加されます。

### 新しいサービス コンフィギュレーションの追加


必要な場合にいつでも新規サービス コンフィギュレーションを追加することができます。



(注)

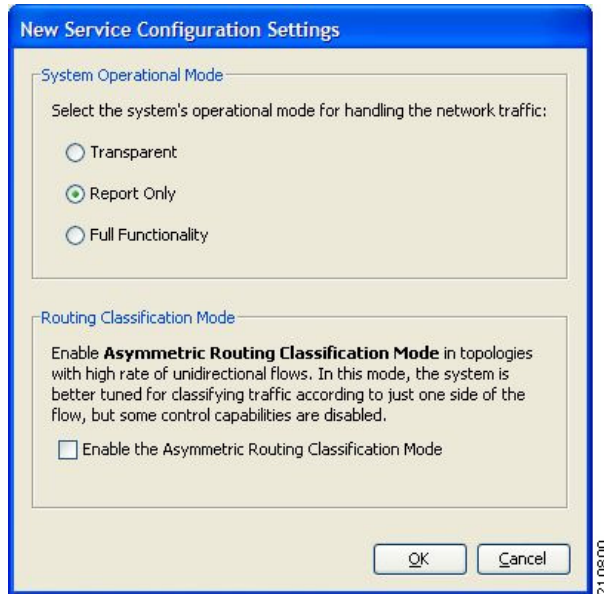
最初の新規サービス コンフィギュレーションを保存するまで、次のサービス コンフィギュレーションを追加することはできません。

新しいサービス コンフィギュレーションを追加するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** Console のツールバーで、 (New Service Configuration) をクリックします。

New Service Configuration Settings ダイアログボックスが表示されます。

図 6-2



**ステップ 2** そのサービス コンフィギュレーションの動作モードを選択します。

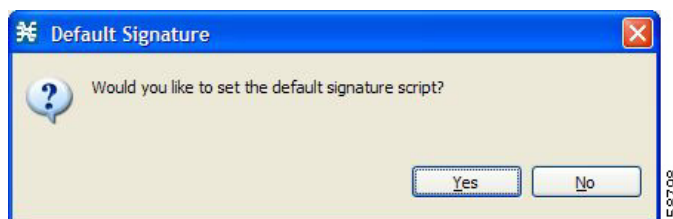
**ステップ 3** システムのルーティング分類モードを選択します。

非対称ルーティング分類モードをイネーブルにすると、単方向フローの比率が高いトポロジで、より正確なプロトコル分類が可能です。このモードがイネーブルになっている場合、一部の分類、レポート、制御の機能はサポートされません（「非対称ルーティング分類モード」 [p.10-34] を参照）。

**ステップ 4** **OK** をクリックします。

- デフォルト DSS ファイルを設定した場合（「デフォルト DSS ファイル」 [p.7-45] を参照）は、Default Signature メッセージが表示されます。

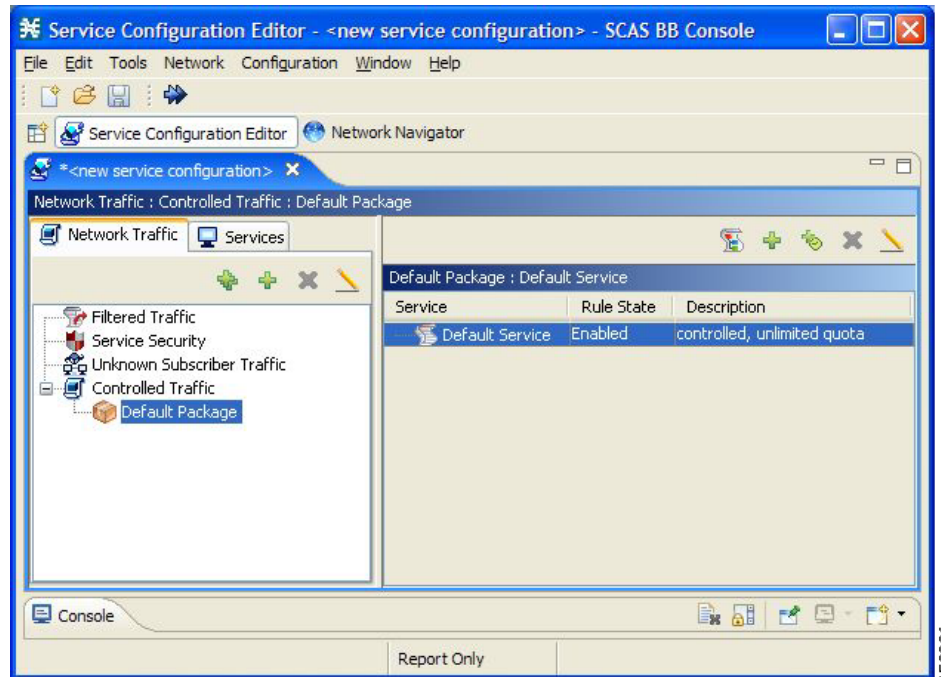
図 6-3



- (推奨) **Yes** をクリックしてデフォルトの DSS ファイルをインポートします。
- デフォルト DSS ファイルをインポートせずに処理を続行するには、**No** をクリックします。

新規サービス コンフィギュレーションが Console ウィンドウに追加されて、Network Traffic タブが開き、アクティブなサービス コンフィギュレーションとなります。

図 6-4



新規サービス コンフィギュレーション ウィンドウが開くときに、SCA BB から提供されるデフォルトのサービス コンフィギュレーションが含まれます。これには、デフォルトのサービス規則を含むデフォルトのパッケージが含まれています。

## 既存のサービス コンフィギュレーションの開き方

表示や編集、または SCE プラットフォームに適用するために、保存されているサービス コンフィギュレーションを開くことができます。

サービス コンフィギュレーションには、拡張 PQB ファイルがあります。

サービス コンフィギュレーションファイルを開くには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** 次のうちいずれかを実行します。

- Console のメイン メニューから **File > Open Service Configuration** の順番に選択します。
- Console のツールバーで、 (**Open A Service Configuration File**) をクリックします。

Open ダイアログボックスが表示されます。

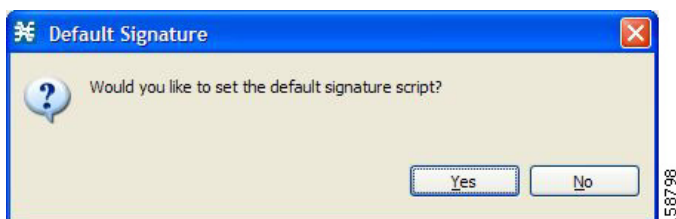
**ステップ 2** サービス コンフィギュレーションファイルをブラウズします。

**ステップ3** **Open** をクリックします。

Open ダイアログボックスが閉じます。

**ステップ4** デフォルトの DSS ファイルがサービス コンフィギュレーションにインポートされていない場合、Default Signature メッセージが表示されます。

図 6-5



- (推奨) **Yes** をクリックしてデフォルトの DSS ファイルをインポートします。
- デフォルト DSS ファイルをインポートせずに処理を続行するには、**No** をクリックします。

サービス コンフィギュレーションが **Console** にロードされます。

- このサービス コンフィギュレーションがアクティブなサービス コンフィギュレーションになります。
- **Console** ウィンドウのタイトルには、このサービス コンフィギュレーション名が含まれます。

## 現在のサービス コンフィギュレーションの保存

アクティブなサービス コンフィギュレーションを保存することができます。

サービス コンフィギュレーション ファイルに現在のサービス コンフィギュレーションを保存するには、次の手順を実行します。

**ステップ1** **Console** のメイン メニューから **File > Save As** の順番に選択します。

Save As ダイアログボックスが表示されます。

- 要求された場合は、パスワードを入力します。

**ステップ2** サービス コンフィギュレーションを含むファイルを保存するフォルダをブラウズします。


**ステップ3** File name フィールドで、新規ファイル名を入力するか、既存の PQB ファイルを選択します。

**ステップ4** **Save** をクリックします。

サービス コンフィギュレーション ファイルが選択されたファイルに保存されます。ファイルが存在する場合は、上書きされます。


処理中に Saving Service Configuration File メッセージが表示されます。

## ロード元ファイルへの現在のサービス コンフィギュレーションの保存

**ステップ 1** Console のツールバーで、 (Save) をクリックします。

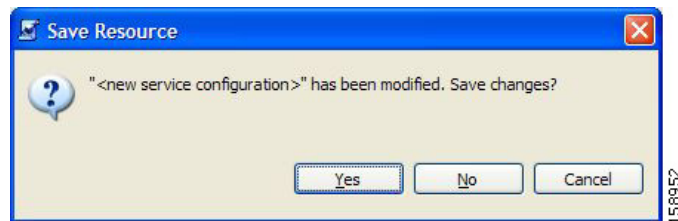
現在のサービス コンフィギュレーションが PQB ファイルからロードされていない場合（つまり、新規の場合や、SCE プラットフォームから取得した場合）、前の手順で Save As ダイアログ ボックスが開きます。

## サービス コンフィギュレーションの閉じ方

**ステップ 1** service configuration 画面で、 (Close) をクリックします。

- 未保存の変更がない場合、サービス コンフィギュレーション画面が閉じます。
- 未保存の変更がある場合、Save Resource メッセージが表示されます。

図 6-6



**ステップ 2** Yes をクリックします。

- 既存の編集済サービスコンフィギュレーションがある場合、変更が保存されてサービス コンフィギュレーション画面が閉じます。
- 新規サービス コンフィギュレーションの場合、Save As ダイアログ ボックスが開きます。サービス コンフィギュレーション名を入力して、Save をクリックします。Save As ダイアログ ボックスが閉じて変更が保存され、サービス コンフィギュレーション画面が閉じます。

## サービス コンフィギュレーション データのエクスポート

サービス コンフィギュレーション データを現在のサービス コンフィギュレーションから CSV ファイルにエクスポートすることができます。CSV ファイル形式については、『Cisco Service Control Application Suit for Broadband Reference Guide』の「CSV File Formats」の章を参照してください。

1 つのサービス コンフィギュレーション要素を CSV ファイルにエクスポートするには、次の手順を実行します。

## 手順の概要

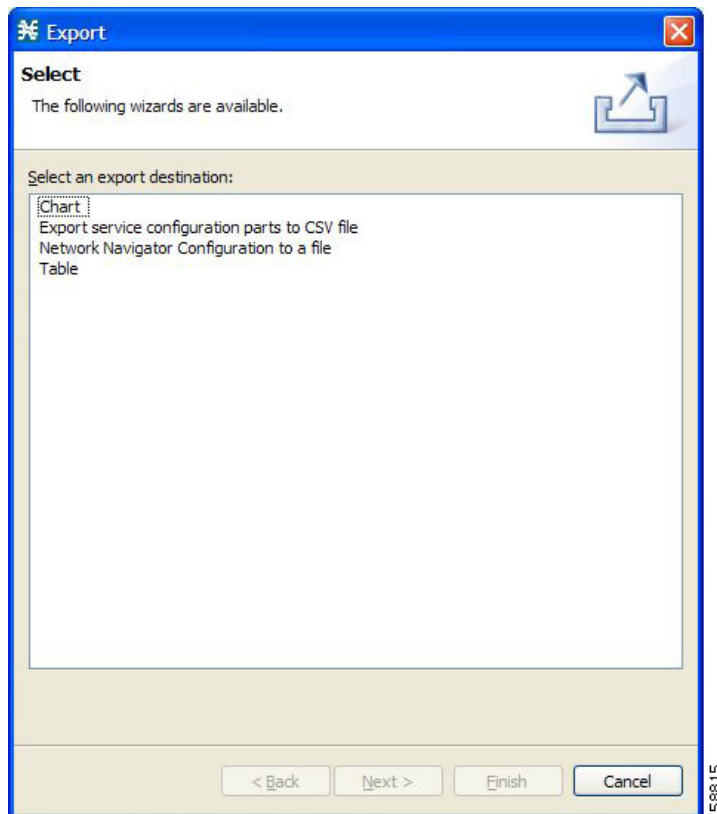
1. Console のメイン メニューから **File >Export** の順番に選択します。
2. エクスポート宛先リストから、**Export service configuration parts to CSV file** を選択します。
3. **Next** をクリックします。
4. **Select service configuration element to export** のオプション ボタンを1つ選択します。
5. Flavors を選択した場合は、**flavor type** オプション ボタンの1つを選択します。
6. **Next** をクリックします。
7. チェック ボックスと選択ボタンを使用して、エクスポートする要素を選択します。
8. Select the export destination 領域で、**Browse** をクリックします。
9. そのサービス コンフィギュレーション要素を含むファイルを保存するフォルダをブラウズします。
10. File name フィールドで、新規ファイル名を入力するか、既存の CSV ファイルを選択します。
11. **Open** をクリックしてファイルを選択します。
12. **Finish** をクリックします。
13. **OK** をクリックします。

## 手順の詳細

**ステップ 1** Console のメイン メニューから **File >Export** の順番に選択します。

Export ダイアログ ボックスが表示されます。

図 6-7

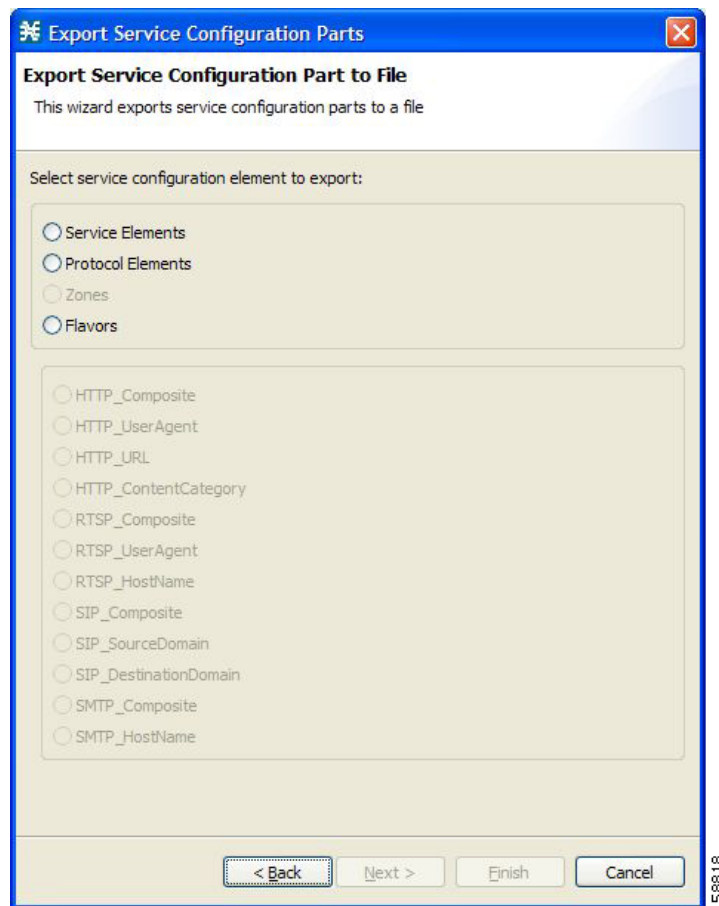


**ステップ 2** エクスポート宛先リストから、**Export service configuration parts to CSV file** を選択します。

**ステップ 3** **Next** をクリックします。

Export Service Configuration Parts ダイアログ ボックスが表示されます。

図 6-8



**ステップ 4** **Select service configuration element to export** のオプション ボタンを 1 つ選択します。

- **Service Elements**
- **Protocol Element**
- **Zone**
- **Flavors**

Flavors を選択した場合、ダイアログ ボックス内にある flavor 領域の flavors がイネーブルになります。



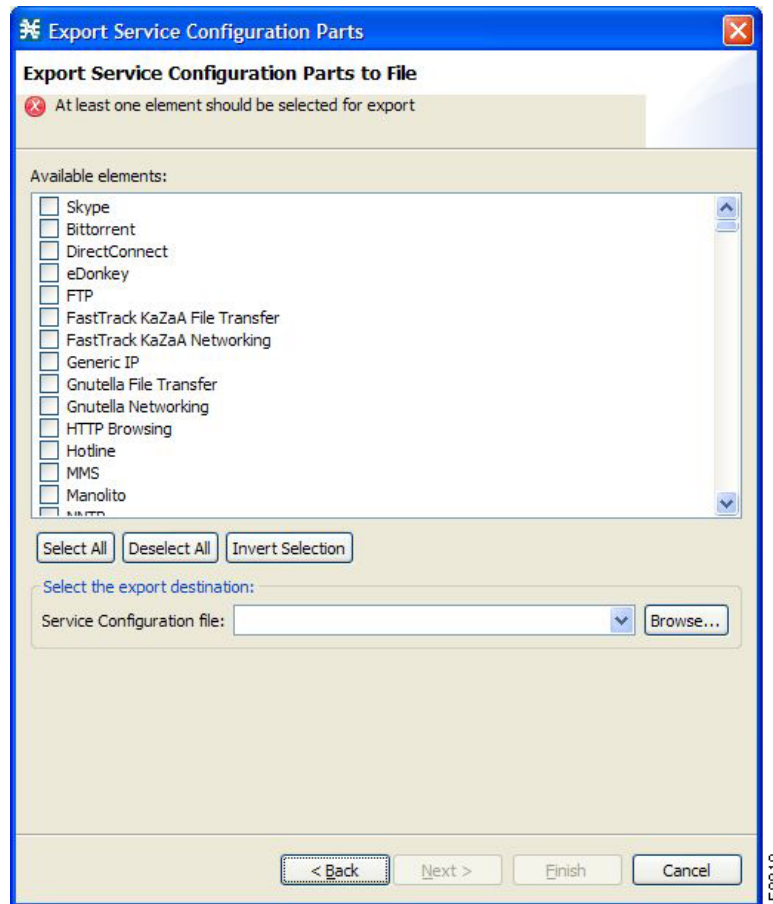
**(注)** このサービス コンフィギュレーション内で flavor タイプが定義されている flavors のみがイネーブルになります。

**ステップ5** Flavors を選択した場合は、**flavor type** オプション ボタンの1つを選択します。

**ステップ6** **Next** をクリックします。

Export Service Configuration Parts ダイアログ ボックスの2番目の画面が開きます。

図 6-9



Available elements ペインに、選択されたタイプのサービス コンフィギュレーションにあるすべての要素が表示されます。

**ステップ7** チェック ボックスと選択ボタンを使用して、エクスポートする要素を選択します。

**ステップ8** Select the export destination 領域で、**Browse** をクリックします。

Open ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ9** そのサービス コンフィギュレーション要素を含むファイルを保存するフォルダをブラウズします。

**ステップ10** File name フィールドで、新規ファイル名を入力するか、既存の CSV ファイルを選択します。

**ステップ11** **Open** をクリックしてファイルを選択します。

ファイルが存在する場合、上書きされます。

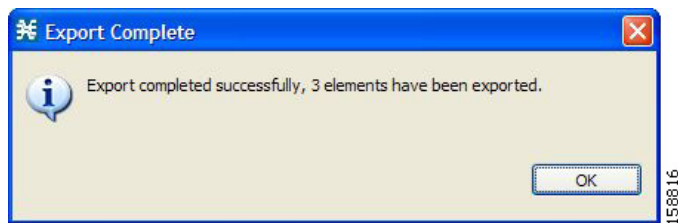
Open ダイアログボックスが閉じます。

**ステップ 12** **Finish** をクリックします。

選択されたサービス コンフィギュレーション要素がファイルにエクスポートされます。

Export Complete メッセージが表示されます。

図 6-10



**ステップ 13** **OK** をクリックします。

Export Service Configuration Parts ダイアログ ボックスが閉じます。

## サービス コンフィギュレーション データのインポート

サービス コンフィギュレーション データを CSV ファイルから現在のサービス コンフィギュレーションにインポートすることができます。CSV ファイル形式については、『*Cisco Service Control Application Suit for Broadband Reference Guide*』の「CSV File Formats」の章を参照してください。

1 つのサービス コンフィギュレーション要素を CSV ファイルからインポートするには、次の手順を実行します。

### 手順の概要

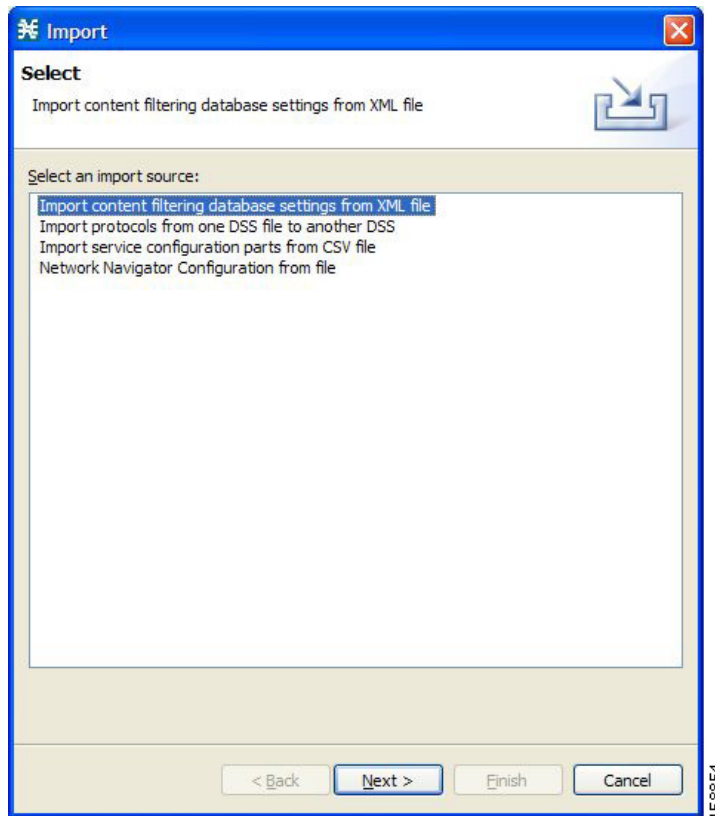
1. Console のメイン メニューから **File > Import** の順番に選択します。
2. インポート元リストから、**Import service configuration parts from CSV file** を選択します。
3. **Next** をクリックします。
4. **Select service configuration element to import** のオプション ボタンを 1 つ選択します。
5. Flavors を選択した場合は、**flavor type** オプション ボタンの 1 つを選択します。
6. **Next** をクリックします。
7. **Browse** をクリックします。
8. インポートするファイルを含むフォルダをブラウズして、CSV ファイルを選択します。
9. **Open** をクリックしてファイルを選択します。
10. **Finish** をクリックします。
11. **OK** をクリックします。

## 手順の詳細

**ステップ 1** Console のメインメニューから **File > Import** の順番に選択します。

Import ダイアログボックスが表示されます。

図 6-11

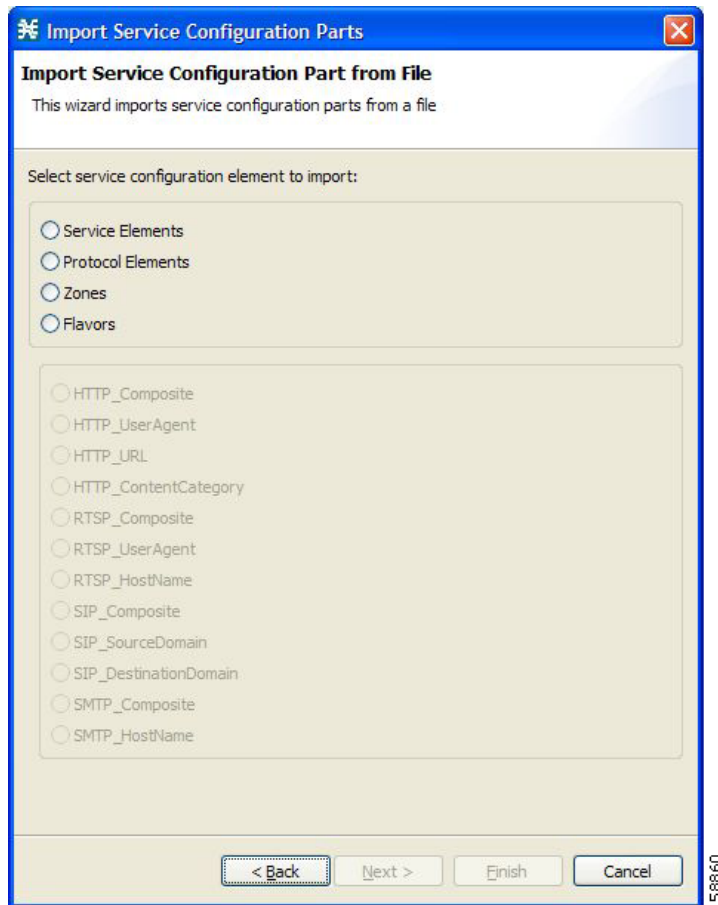


**ステップ 2** インポート元リストから、**Import service configuration parts from CSV file** を選択します。

**ステップ 3** **Next** をクリックします。

Import Service Configuration Parts ダイアログボックスが表示されます。

図 6-12



**ステップ 4** **Select service configuration element to import** のオプション ボタンを 1 つ選択します。

- **Service Elements**
- **Protocol Element**
- **Zone**
- **Flavors**

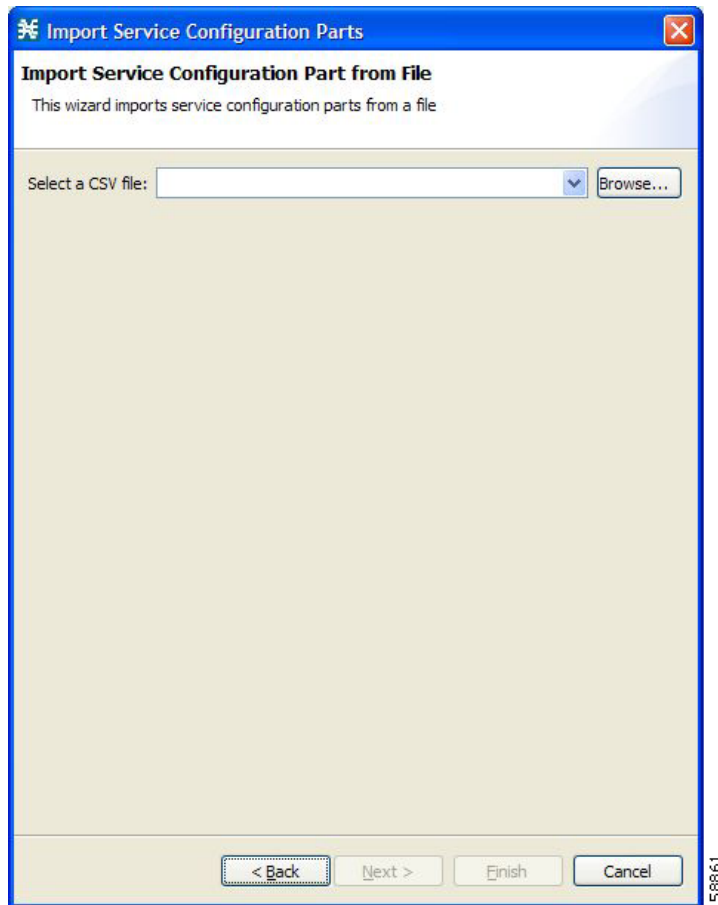
Flavors を選択した場合、ダイアログ ボックス内にある flavor 領域の flavors がイネーブルになります。

**ステップ 5** Flavors を選択した場合は、**flavor type** オプション ボタンの 1 つを選択します。

**ステップ 6** **Next** をクリックします。

Import Service Configuration Parts ダイアログ ボックスの 2 番目の画面が開きます。

図 6-13



**ステップ 7** **Browse** をクリックします。

Open ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 8** インポートするファイルを含むフォルダをブラウズして、CSV ファイルを選択します。

**ステップ 9** **Open** をクリックしてファイルを選択します。

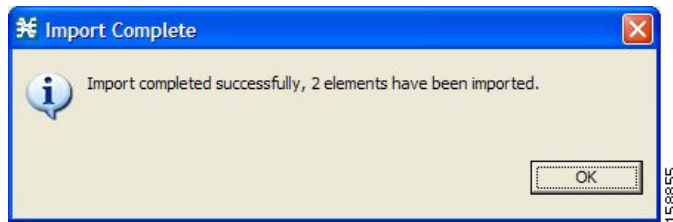
Open ダイアログボックスが閉じます。

**ステップ 10** **Finish** をクリックします。

コンフィギュレーション要素がファイルからインポートされます。

Import Complete メッセージが表示されます。

図 6-14



ステップ 11 OK をクリックします。

Import Service Configuration Parts ダイアログ ボックスが表示されます。

## サービス コンフィギュレーションの適用および取得

新規または編集済みのサービス コンフィギュレーションを有効にするには、SCE プラットフォームに適用する必要があります。適用するまで、SCE プラットフォームには引き続き前のサービス コンフィギュレーションが適用されます。

Service Configuration Editor を使用してサービス コンフィギュレーションを SCE プラットフォームに適用することはできますが、サービス コンフィギュレーションを取得することはできません。

次の機能を使用すると、サービス コンフィギュレーションの適用または取得が可能です。

- [Network Navigator ツール \(p.5-2\)](#)
- [SCA BB サービス コンフィギュレーション ユーティリティ](#)、[servconf](#) の使用方法（「[SCA BB Service Configuration Utility についての情報](#)」[p.13-2] を参照）

## 現在のサービス コンフィギュレーションの検証

現在表示されている新しいサービス コンフィギュレーションまたは更新済みサービス コンフィギュレーションを検証するには、**Validate** オプションを使用します。検証プロセスは、サービス コンフィギュレーション全体の一貫性を調べ、サービス コンフィギュレーション内の問題点を識別するものです。

**Apply Service Configuration to SCE device** を選択すると検証プロセスが自動的に実行されます。手順でエラーが検出されたり、現在のサービス コンフィギュレーションに関連する警告が発行された場合にのみ、**Validation Results** ダイアログ ボックスが表示されます。

現在のサービス コンフィギュレーションを検証するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Console のメイン メニューから **File > Validate** の順番に選択します。

**Validation Results** ダイアログボックスが表示されます。

図 6-15

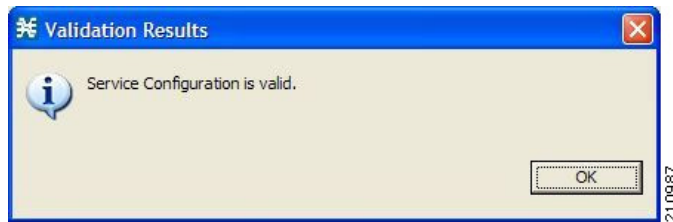
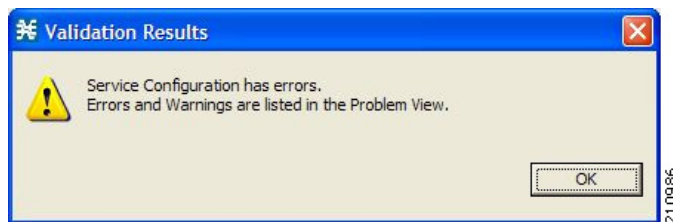


図 6-16



サービス コンフィギュレーションに何か問題がある場合は Problems 画面に表示されます。

**ステップ 2** OK をクリックします。

Service Configuration Validation ダイアログ ボックスが閉じます。

## SCE プラットフォームへのサービス コンフィギュレーションの適用

**Apply Service Configuration to SCE Devices** をクリックすると、現在のサービス コンフィギュレーションに対して検証プロセスが自動的に実行されます。



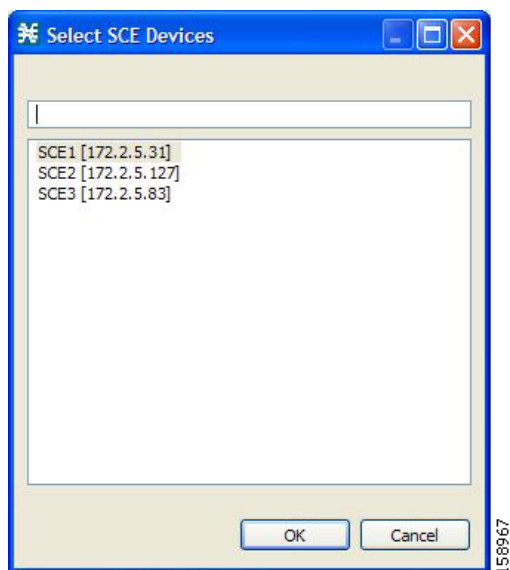
(注) サービス コンフィギュレーションを手動で検証するには、**Validate** メニューを使用します。

SCE プラットフォームに現在のサービス コンフィギュレーションを適用するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** Console のツールバーで、 (**Apply Service Configuration to SCE Devices**) を選択します。

SCE Devices ダイアログ ボックスが表示されます。

図 6-17



Network Navigator に定義されたすべての SCE プラットフォームがダイアログ ボックスに一覧表示されます。

**ステップ 2** リストから、1 つまたは複数の SCE プラットフォームを選択します。

**ステップ 3** **OK** をクリックします。

選択された各プラットフォームに対して Password Management ダイアログ ボックスが表示されます。

**ステップ 4** 適切なパスワードを入力します (詳細は、「Network Navigator ツール」 [p.5-2] を参照してください)。

**ステップ 5** **Apply** をクリックします。

Password Management ダイアログボックスが閉じます。

選択された SCE プラットフォームごとに Applying service configuration to SCE 経過表示バーが表示されます。

そのサービス コンフィギュレーションに対して検証プロセスが実行されます。

- 問題が発生し、警告またはエラーが表示されて検証プロセスが終了した場合は、Validation Results ダイアログ ボックスが表示されます。**OK** をクリックし、Problems 画面に表示された情報に基づいてサービス コンフィギュレーションを修正し、この手順を繰り返します。
- 検証プロセスが正常に実行されれば、選択された SCE プラットフォームにそのサービス コンフィギュレーションが適用されます。